

日本心理臨床学会第38回大会 学会賞受賞者講演
2019年6月9日：パシフィコ横浜

公認心理師をめぐる諸課題

野島 一彦（跡見学園女子大学）

2019年度学会賞授賞理由

長年理事・常任理事を歴任し平成26年度より第3期理事長を務められるなど、本学会の発展に多大な貢献をされた。また、エンカウンター・グループを始めとする心理臨床学の幅広い研究成果を発表し、学術的展開に重要な役割を果たした功績

私の二大ライフワーク

(1) 心理職の国家資格化

- ・1970年（修士1年生）の九州大学での日本臨床心理学会での国家資格問題をめぐる賛成派と反対派の激突を目撃～現在

(2) エンカウンター・グループの実践と研究

- ・1970年に九州大学で前田重治先生のご紹介で村山正治先生と出会いエンカウンター・グループのことを知る～現在

I 私の心理職の国家資格化への関わり

- 1970. 10 : 修士1年の時に、九州大学での日本臨床心理学会での国家資格問題をめぐる賛成派と反対派の激突を目撃
- 1982年 : 国家資格化をめざす日本心理臨床学会創設
すぐに入会 (会員番号946)
- 1988年 : 国家資格化のための一階梯として日本臨床心理士資格認定協会設立 臨床心理士 (登録番号169)
- 1989年 : 日本臨床心理士会入会
- 1991年 : 本学会の理事になる (44歳)

- 2005年：二資格一法案の頓挫
- 2009年：三団体会談（推進協、推進連、日心連）スタート
- 2011年：三団体要望書「心理職に国家資格を」
- 2013年（～2017年）：日本臨床心理士会「資格法制化PT」代表
- 2015年：公認心理師法制定・公布（当時私は本学会理事長）
- 2017年（～2019年）：日本臨床心理士会「公認心理師制度対応PT」代表
- 2017年：法の施行
- 2018年：正規ルートでの養成スタート、経過措置の国家試験

Ⅱ 今後の課題

- 法制化により、国家資格の「**実現化**」は達成された。
- 今後はその「**現実化**」が大切：現実的に国民の心の健康の保持・増進に寄与する有能な公認心理師をいかに育て、社会的に認められるようにするかが重要
(2018年は公認心理師元年)
- 主な6つの課題＝ (1) 養成、(2) 試験、(3) 研修、(4) 職能団体、(5) 職域拡大、(6) 政治連盟

- テキスト：大学の「演習」、「実習」を除く23科目、大学院の「心理実践実習」を除く9科目 (私は監修者)
 - * 「公認心理師の基礎と実践シリーズ（全23巻）」遠見書房
 - * 「公認心理師分野別テキスト（全5巻）」創元社
 - * 「公認心理師実践ガイダンス（全4巻）」木立の文庫
- 実習が大変
実習の手引、実習日誌、実習先の確保、実習費、巡回指導等
 - * 公認心理師養成機関連盟編「公認心理師養成の実習ガイド（仮）」日本評論社 7月刊行予定
- 実習および演習担当教員、実習指導者の養成

(2) 試験

- 2018. 9. 9: 経過措置による第1回試験の実施
- 2018. 12. 16: 北海道胆振東部地震による追加試験
- 受験者：36,103人／合格者：28,574人（合格率79.1%）
- 区分Gの受験者（5年以上の実務経験+ 現任者講習）は2022年度限りで終了／区分D, E, Fの受験者はその後も受験可能
- * ころの科学編集部編「公認心理師試験の問題と解説」
日本評論社 6月末刊行予定
- 第2回試験：2019. 8. 4
- 正規ルートで養成された受験者は2023年度中に第1回試験か

(3) 研修

- 臨床心理士は5年ごとの更新制があるが、公認心理師にはそれがない
- いくつかの団体では「上位資格」をつくり、それを「更新制」にすることが考えられている。
- 資格の種類としては、レベル別／分野別／業務別／技法別等が考えられる
- 単独の団体だけで、上位資格をつくり研修をしていくというのでは難しいので、複数の団体が合同（共同）で組織を構成して、協力してやっていくことが必要

(4) 職能団体

- ・ 公認心理師の質の維持、社会的認知度向上等のために必要
- ・ 一般社団法人日本公認心理師協会 <http://jacpp.or.jp>
- ・ 公認心理師の会

https://psych.or.jp/qualification/shinrishi_info/cpp-network/

- ・ 職能団体は1つであることが望ましいが、現在は分立している
→まとめることが必要
- ・ 心理の職能団体としてわが国最大の「日本臨床心理士会」（会員2万人）との共存をどうするか

- 全国組織（日本公認心理師協会）と地方組織（東京公認心理師協会 <http://www.tsccp.jp/> 等）の関係

全国組織のみ入会

地方組織のみ入会

全国組織と地方組織の両方に入会

(5) 職域拡大

- 公認心理師をたくさんつくって、職があるのかと心配する声
- 現在の職だけで職が足りなければ新規に「開拓」すればよい
- もっとも有望なのは産業・労働の分野：心の健康の保持・増進は非常に大きな意義がある、対象者が10代後半から70代までときわめて多い
- 社会的ニーズとして高齢者支援も必要性が高い分野
- 家族支援（親子、夫婦、家族ダイナミックス）も重要な分野
- 支援方法としては個別支援（二者関係）だけでなくグループ支援（三者以上関係）の積極的活用が有効

(6) 政治連盟

- 国家資格の諸団体（医師、看護師等）は政治連盟をつくり、その資格の社会的位置づけのために政治連盟を結成
- 政治連盟を中心に国会議員を出したり、協力してくれる国会議員をサポート
- 成熟した国家資格には、政治連盟は必要

ご静聴ありがとうございました。